

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-27

千山萬里

浅井, 辰郎

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学研究室

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政地理

(巻 / Volume)

1

(開始ページ / Start Page)

4

(終了ページ / End Page)

5

(発行年 / Year)

1950-07-01

承ない。

居ながらにして千里の外を知る様な書物を読む事は勿論大切である。外国地誌の場合は殆んどそれが唯一の手段であらう。日本地誌についても大半の地域に関しては同じ事である。一人の人間がどんなに心がけが良く、又旅費に恵まれているとしても旅行し観察する事の出来る範囲は知れたものである。況や資料と觀察等をまどめて地域を理解する事の出来る範囲は一層着しく限定されたものに違いない。だから能率的な勉強法は旅行の時間と労力や旅費を凡て読書に集中する事にあるのかも知れない。そして旅行など最も非能率な勉強法であらう。しかも私がこの非能率な旅行をし且非能率な旅行を奨めるのは、地域を理解する過程を理解する爲であり、従つて記載された地誌を飛躍的に深く理解する事が出来る高い能率の故である。又もし敢えて付加すれば地誌の爲に微力を盡す喜びの爲である。

十 山 萬 里

顧 門 浅 井 辰 郎

「一夜、三代の御招待で奥様御子様と共に福州料理の卓子を囲む。話は富院の昔話に絞つたが暫らく口に不存をしていた僕等の事にて耳より口の方が忙しい。吾助運と思つて用意して下さつた沢山のビールも調立材料の整理というは争のある身には残念ながら逐畝せざるを得なかつた。-----」 中学を卒業した頃の私に未だ見ぬ支那大陸の夢と同 性の遊がせをしみじみ哉か

「チ、ハルに着いたのは夕方だつた。S氏に迎えられ公所に模付けになる。----雑談してゐる中に旅行費に問題が起つてS氏は仲々僕等をいざめる。『君等は何処へ行つても他人の厄介にばかりなつて書院の恥だぞ。先輩や知合の家に泊るのはまあいいが、る人もら人もつめかけるのは考へものだぞ』。甚だ耳が痛い。『大体学校が充分の旅費を出さないのが悪い。----学校に一筆書くから君等の予算表を一枚置いて行つてくれ』とのことでその晩は同行する人の予算表を視察して提出する。こんなに言われながらも、そこは先輩だ、腹も立たない。』

視察記「十山万里」は日華の風雲が漸く急にならうとした昭和6年、東亞英文書院の学生70余名が19班に分れて或は黒龍江を通り、或は

滇越鐵路を雲南に向い、又南溟に船を遣り、北沙に轉した700頁に近い記録である。この頃の時代背景には、英、独、佛の中国支配に續くオーストリア大戦後の英、米、佛の中国支配、それを盲目的に真似て、これら諸国が中国の覺醒に対応して讓歩して行った後も相変わらずの支配を襲ひていた日本の經濟的愚痴があつた事は忘れてならない。勿論国内にも現地に先覺の士はあり、又同文書院の學生並で若人のヒューマニズムに燃え、この日本の大勢を憂えたものも少くなかつたことは本書に明らかなである。それはさておきし千山万里「から受ける感銘は學生並が全中国到る所で同窓の先輩に迎えられ、調査の指導紹介から宿泊、療養に到る迄懇切な待遇を受け、學生は又よく僅かな旅費を以て車中に寝、粗食に耐えて諸州を遍歴し、或いは華僑の送金回函を報告し、或はソ連邦の北滿におけるダンピングを綴つてゐることである。

土地を理解するには地理書を読むだけでも、又目で見て歩くだけでも共に眞實は把握ににくい。最良の方法は書物を読んで概念を促し、实地に見、そしてその地の表裏共に知り、且つ話せる人から聞くことであろう。法政地理の学会創立は又くの意義をもつが、その重要な一つは、地理學徒の旅行を盛にし、日本各地に初く先學を來訪した後學を指導し、在活し、後學は自らの狭い知識経験に促されることなく広く知識を求めて行く氣風を醸成することであろう。先輩後輩と云ふ文字に近し古い親分乾分の、排他的な響きがあるなり勿論その處は嚴密に善て去り、又一方社会に立つ經驗者の舌を聳んじ、他人の時間や金錢をないがしろにする戦後派的氣分をも反省しつつ実地見聞を行ふならこれこそいつの時代に於いても吾々地理學徒にとって最も有効な研究手段を活用することであり、更にそれをお互に協力して実現していくことは嬉しい責任でもあろう。